

## 2022 年度事業報告

### 概要報告

#### 骨髄バンク事業の現況と運動の成果

2020 年から新型コロナウイルス感染症が蔓延し、2022 年度も第 8 波が広がるなどコロナに翻弄された中での普及啓発活動及びドナー登録推進活動となりました。こうした中においても、全国各地のドナー登録推進活動により 34,507 人（2021 年度 32,371 人）の方々に新規登録をしていただくことができました。一方、骨髄バンクの移植数は、1,055 件（2021 年度 1,173 件）となり、減少傾向が鮮明になっています。

全国の医療機関においては患者さんの根治療法として多くの造血幹細胞移植が行われており、本年 2 月 24 日には非血縁者間における骨髄バンクの移植とさい帯血バンクの移植の件数累計が 5 万例に到達する大きな成果となりました。これを記念し、本年 2 月 12 日（日）に名古屋で開催された第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会（学会長：赤塚美樹先生）の市民公開講座において、「骨髄バンク・さい帯血バンク移植 5 万例達成記念イベント」を学会と全国協議会の共催事業として開催いたしました。

また、公的骨髄バンクが設立されて三十数年経過し、移植生存率も向上し、多くの移植患者さんが長期間、日々元気に生活できています。患者さんはこうしたことに感謝をしているが、もっとも大事な人（ドナー）に感謝を伝えることができないという心の悩みを吐露される方もいます。

2022 年 6 月 7 日に行われた骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会では全国協議会からは、非血縁者間造血幹細胞移植 5 万例到達を啓発の機会にすることおよび移植患者さんの思いを伝える機会の再検討などに関して提言を行いました。

2022 年度においては、千葉県在住の再生不良性貧血の患児である小学生の女の子になかなか適合ドナーが見つからない状況にありました。各地のボランティアが更なるドナー登録促進に注力した結果、ようやく適合ドナーが現れました。「誰ひとりとして残さない」というボランティア全員の気概がこの結果をもたらしたものです。

# 事業別報告

## 1. 普及啓発事業

### (1) 普及啓発活動

#### 1) 主催・共催、協力、名義後援などの普及啓発

##### ① 主催事業 計1件

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度も一堂に会してのボランティアの集いは行わず、東京新橋の会場を拠点としてハイブリッド形式で開催しました。新橋の会場を起点としたWeb開催は2年連続となりました。また例年行っていた箱根駅伝での街頭啓発活動も主催者側からの要請により中止としました。

開催期間		内容	参加人数	開催場所
2022年	5月28日	2022 全国ボランティアの集い in 東京	120人	新橋ビジネスフォーラムからWeb配信

##### ② 共催事業 計7件

2022年度は2つの大きなトピックがありました。日本造血・免疫細胞療法学会との共催で骨髄バンク・さい帯血バンク移植症例5万例到達の記念イベントとして市民公開講座を実施したことと、全国の骨髄バンクボランティア団体を対象とした事業共催制度をスタートさせたことです。前者は造血幹細胞移植事業を広く社会に対して啓発するとともに、患者さんを励まし、さらには医療関係者へ感謝することが目的であり、後者はコロナ禍によって疲弊した骨髄バンクボランティアによる患者支援活動、啓発活動の活性化を目的としたものです。

開催期間		事業名	開催地	主催
2022年	8月7日	骨髄バンク設立30周年記念「愛のコンサート」と医療講演会	鹿児島県鹿児島市	かごしま骨髄バンク推進連絡会議
	11月23日	「ピアノ三重奏コンサート」	東京都文京区	骨髄バンクを支援する東京の会
	11月26日	骨髄バンクチャリティ「コンサートと落語会」	千葉県成田市	千葉骨髄バンク推進連絡会
	12月24日	25周年記念事業「未来につなぐ 命と心のバトン」	山形県山形市	骨髄バンクを支援するやまがたの会
	12月25日	骨髄バンク支援「クリスマスコンサート2022」	兵庫県姫路市	姫路地区骨髄バンク推進センター
2023年	2月12日	第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会 市民公開講座	愛知県名古屋市及配信	日本造血・免疫細胞療法学会

2023年	3月14日	「骨髄バンクチャリティー 田島高宏&田島ゆみ 春待ち コンサート」	北海道 札幌市	北海道骨髄バンク推進協会
-------	-------	---	------------	--------------

③ 協力事業 計1件

グリーンリボンは3年振りの開催となりました。

開催期間		事業名	開催場	主催
2022年	10月10日	2022 グリーンリボンランニングフェスティバル	東京都 世田谷区	NPO 法人日本移植者協議会 ほか

④ 名義後援事業 計4件

SNOWBANKでは献血471名、ドナー登録102名という大きな成果が上がりました。あいちの会の3回目のお手紙は、ドナーに対し、感謝を伝えたいという移植患者の切なる希望をテーマとしたもので、大きな反響を呼びました。

開催期間		事業名	開催場	主催
2022年	11月12日 ～13日	東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2022	東京都 渋谷区	一般社団法人 SNOWBANK
	12月3日	「骨髄バンクチャリティー麻雀大会 2022 in 姫路」	兵庫県 姫路市	姫路ビッグドラゴン
2023年	2月19日	「3回目のお手紙～今 伝えたい 想い～」	Web	あいち骨髄バンクを支援する会
	3月4日 ～12日	「AYA week 2023」	Web	一般社団法人 AYA がんの医療 と支援のあり方研究会

⑤ 展示会への協力

2022年度は今までコロナ禍のおかげで中止、延期となっていた各イベントが徐々に再開し始めた年でもありました。全国協議会関係のパネル展による啓発活動も活発に行われ、全てのパネル展を合計すると全国各地で37カ所の開催となりました。2021年度の4カ所と比較すると復活の勢いがわかります。

MAMOのメッセージ展 計4カ所（1997年6月から事業開始累計開催数 157回）

開催期間		開催場所		主催
2022年	7月5日 ～7月22日	宮城県 仙台市	東北高等学校小松島キャンパス	骨髄バンクを支援するやまがたの会
	8月2日 ～8月10日	大阪府 豊中市	豊中市役所 (いのちの輝き展同時開催)	NPO 法人つながるいのち

2022年	8月23日 ～9月5日	大阪府 池田市	池田市役所 (いのちの輝き展同時開催)	NPO 法人つながるいのち
	9月30日 ～11月18日	山形県 山形市	山形県生涯学習センター「遊学館」、山形県庁舎1階ロビー、荘内銀行桜田支店、きらやか銀行本店、イオンモール山形南	山形県健康福祉部医療政策課

いのちの輝き展 計 17 カ所 (2006 年 6 月から事業開始 累計開催数 156 回)

開催期間	開催場所		主催
6月19日	東京都 三鷹市	三鷹駅北口エリア	JCI 東京ブロック協議会
8月1日 ～8月15日	千葉県 茂原市	茂原図書館 (わたし頑張ったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
8月2日 ～8月10日	大阪府 豊中市	豊中市役所 (MAMO のメッセージ展同時開催)	NPO 法人つながるいのち
8月17日 ～8月30日	千葉県 いすみ市	いすみ市役所 (わたし頑張ったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
8月23日 ～9月5日	大阪府 池田市	池田市役所 (MAMO のメッセージ展同時開催)	NPO 法人つながるいのち
8月31日 ～9月13日	千葉県 横芝光町	横芝光町図書館 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
9月13日 ～9月18日	千葉県 大網白里市	大網白里市中央公民館 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
9月20日 ～10月4日	千葉県 旭市	旭市役所 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
10月3日 ～10月14日	千葉県 市原市	市原市役所 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
10月5日 ～10月17日	千葉県 芝山町	芝山町役場 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
10月15日 ～10月30日	千葉県 船橋市	イオンモール船橋店 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
10月18日 ～10月25日	千葉県 富里市	富里市中央公民館 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会

2022年	11月1日 ～11月15日	千葉県 匝瑳市	匝瑳市役所（わたしがんば ったよ展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会
	11月22日 ～12月6日	千葉県 御宿町	御宿町中央公民館（わたし がんばったよ展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会
	12月7日 ～12月19日	千葉県 一宮町	一宮町中央公民館（わたし がんばったよ展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会
2023年	3月2日 ～3月25日	山形県 山形市	ムービーオンやまがた	骨髓バンクを支援するやまが たの会
	3月5日	東京都 千代田区	東京国際フォーラム (東京マラソンチャリティラウンジ)	全国骨髓バンク推進連絡協議会

あやちゃんの贈り物展 計2カ所（1994年7月から事業開始 累計開催数 284回）

開催期間		開催場所		主催
2022年	8月7日	鹿児島県 鹿児島市	かごしま県民交流センター	かごしま骨髓バンク推進連絡 会議
	10月17日 ～10月18日	北海道 札幌市	北海道庁本館1階ロビー特 設展示場	北海道骨髓バンク推進協会

患者とドナーのお手紙展 計1カ所（2004年9月から事業開始 累計開催数 59回）

開催期間		開催場所		主催
2022年	10月17日 ～10月21日	宮崎県 宮崎市	イオンモール宮崎1階 レストランコート	宮崎県福祉保健部健康増進課

わたしがんばったよ展 計13カ所（2012年11月から事業開始 累計開催数 46回）

開催期間		開催場所		主催
2022年	8月1日 ～8月15日	千葉県 茂原市	茂原図書館（いのちの輝き 展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会
	8月17日 ～8月30日	千葉県 いすみ市	いすみ市役所（いのちの輝 き展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会
	8月31 ～9月13日	千葉県 横芝光町	横芝光町図書館（いのちの 輝き展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会
	9月13日 ～9月18日	千葉県 大網白里市	大網白里市中央公民館（い のちの輝き展同時開催）	千葉骨髓バンク推進連絡会

2022年	9月20日 ～10月4日	千葉県 旭市	旭市役所（いのちの輝き展 同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月3日 ～10月14日	千葉県 市原市	市原市役所（いのちの輝き 展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月5日 ～10月17日	千葉県 芝山町	芝山町役場（いのちの輝き 展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月15日 ～10月30日	千葉県 船橋市	イオンモール船橋店（いのち の輝き展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月18日 ～10月25日	千葉県 富里市	富里市中央公民館（いのち の輝き展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月1日 ～11月15日	千葉県 匝瑳市	匝瑳市役所（いのちの輝き 展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月22日 ～12月6日	千葉県 御宿町	御宿町中央公民館（いのち の輝き展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	12月7日 ～12月19日	千葉県 一宮町	一宮町中央公民館（いのち の輝き展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
2023年	1月15日	宮崎県 小林市	小林市文化会館	みやざき骨髄バンク推進連絡 会議

## 2) 啓発グッズの作成・頒布

ハローキティミニサイズうちわ、ハローキティポケットティッシュ、ハローキティクリアファイル、ミニハンカチを加盟団体、各地方自治体を介して頒布しました。ポケットティッシュなどは、コロナ禍以前は年間で約15～20万個程度出荷していましたが、2022年度は登録会などは徐々に回復傾向とはいえ、出荷数量は5万個には届きませんでした。ポケットティッシュ、クリアファイル、ミニハンカチの在庫がなくなったため、3年振りに作成することになりました。特にハローキティのキャラクターを用いたポケットティッシュは、新しいデザインとなり、また、全国協議会ホームページのドナー登録を呼びかけるページを遷移先としたQRコードを記載して、啓発の機能を強化しました。

### グッズの作成と活用

グッズ名	配布先・配布数		作成数・作成時期	
ハローキティポケットティッシュ	加盟団体へ	10,006個	220,000個	2020年 1月
	地方自治体など	30,739個		

ハローキティクリアファイル	加盟団体へ 地方自治体など	891枚 205枚	5,000枚	2019年 9月
ハローキティ横断幕	加盟団体へ 地方自治体など	1枚 1枚	—	—
ハローキティのぼり	加盟団体へ 地方自治体など	4枚 4枚	—	—
ハローキティうちわ	加盟団体へ 地方自治体など	100枚 120枚	5,000枚	2019年 7月
今治のミニハンカチ（白）	加盟団体へ 地方自治体など	1,170枚 633枚	6,000枚	2019年 12月
今治のミニハンカチ （ターコイズブルー）	加盟団体へ 地方自治体など	0枚 0枚	6,156枚	2023年 3月

## （２）東京マラソン 2023 の取り組み

2023年3月5日（日）に東京マラソン 2023 が開催されました。全国協議会のチャリティランナーでエントリーされた方は63名（海外からの3名含む）でした。EXPO（事前に行われるランナーの出走受付）やラウンジの運営等のランナーホスピタリティ、沿道応援すべてに対応する本格的な参加は初めてとなり、関東近県各ボランティア団体の協力の下、実施しました。

チャリティランナーは単に寄付して下さった東京マラソンでの支援者としてではなく、東京マラソンが終わった後も、継続して骨髄バンク事業に理解を示し、またご支援いただけるように情報提供し、また、心を込めておもてなしをしました。

東京マラソンでは、患者支援活動のための寄付を得ることが目的となっていますが、同時に有効な啓発イベントでもありました。全国協議会のブースには一般の方や、全国協議会以外のチャリティランナーが来訪して下さり、「ドナー登録は何歳まで可能ですか？」、「どこに行けばドナー登録できるのですか？」、「骨髄提供の経験があります。活動頑張ってください」といった、質問や励ましの言葉を多くの方からいただきました。

### (3) 情報発信

- ・機関紙の定期発行（計 12 回）

全国協議会ニュース 第 356～367 号 毎月 3,700 部発行×12 回（毎月 1 日発行）行政、議員、関係機関、医療関係者、寄付者、各地団体などへ郵送配布しました。

号数	発行月	主な記事内容
No.356	2022 年 4 月	岐阜市民病院に「AYA 世代」のがん患者の悩みや課題に寄り添う支援チーム発足
No.357	2022 年 5 月	小児・AYA 世代がん患者さんに対する国の妊孕性温存研究促進事業の状況
No.358	2022 年 6 月	コロナ禍における造血幹細胞移植患者の経済的状況調査を実施
No.359	2022 年 7 月	2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京 開催
No.360	2022 年 8 月	国、日本骨髄バンク、日本赤十字社に「骨髄バンク事業の一層の充実に関する要望書」を提出
No.361	2022 年 9 月	厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室長に西嶋康浩氏就任
No.362	2022 年 10 月	日本骨髄バンク地区普及広報委員、説明員研修会開催
No.363	2022 年 11 月	日本骨髄バンクの全国大会 広島で開催
No.364	2022 年 12 月	「東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2022」開催
No.365	2023 年 1 月	新年の挨拶（会長、理事長、関係機関代表者）、語りべ活動報告（滋賀）、ボランティアフェスティバル参加（奈良）
No.366	2023 年 2 月	全国協議会第 12 期役員選考告示 埼玉骨髄バンク推進協会 保健文化賞受賞
No.367	2023 年 3 月	日本造血・免疫細胞療法学会総会 5 万例達成記念イベント市民公開講座 開催

- ・ホームページ（HP）などでの情報提供

ホームページ実行委員会で検討された「支援者ページ」の全面的な見直しを行いました。支援を継続して下さる企業・団体や賛助会員だけではなく、クラウドファンディングで支援して下さった方や募金箱設置に協力いただいた皆様など、多くの支援者の皆様に登場いただくようにしました。

また、HP や Facebook 等を適宜更新し、全国協議会ニュースや事業報告・決算、事業計画・予算などの情報公開を行いました。



#### (4) その他

- ・学生の学習、研修対応

2023年1月27日 中野区立中野中学校 社会貢献の学習 4人

- ・寄付贈呈 計2回

開催期間		内 容	主催者・事業名等
2023年	2月12日	寄付贈呈 (山村副理事長)	ゴールドジム関西スクール発表会2023
	2月18日	寄付贈呈	ゴールドジム関東スクール発表会2023

### 3. 患者・ドナー支援事業

#### (1) 患者・家族への支援活動

「白血病フリーダイヤル」による相談活動

「白血病フリーダイヤル」の、本年度の開設回数は19回、受付相談件数は135件（前年度95件）でした。コロナ感染拡大防止の観点から2022年8月、9月の2カ月にわたり相談受付を中止しました。また2021年度同様に第2、第4土曜日のみ開設しました。

白血病フリーダイヤル（患者・家族相談受付）（累計 1,270回、9,042件）  
開設回数 19回（第2、第4土曜日）  
受付相談件数 135件  
相談員数 延べ73人（うち医師 延べ 19人）

ハンドブック「白血病と言われたら」の頒布活動

「白血病と言われたら」改訂第6版の冊子については、患者・家族、各種学校や医療機関等からの多くの注文がありました。一方、知りたい情報だけを手軽に入手できる無料ダウンロード数も好調で多くの方に活用されました。同書を患者・家族に対する説明の際に活用する医療機関もあり、定期的に購入されています。

#### 《出荷状況》

- ・有料頒布数

上巻 124部 下巻 122部

- ・啓発用頒布数

上巻 145部 下巻 145部

- ・ダウンロード数

1,556件（累計5,195件）

① 移植患者への経済的支援「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」

2022年5月には、前年度に実施したクラウドファンディングに集まった寄付10,101,232円の内手数料1,555,590円を差し引いた8,545,642円を佐藤きち子基金に繰り入れることができました。2022年度の患者助成金と基金運営費で合計6,489,179円の支出があり、2022年3月末日の基金残高は11,270,058円となっています。

本年度の申請件数は21件（前年度20件）、助成件数は19件（前年度18件）でした。

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

問い合わせ件数 70件

申請件数 21件

助成件数 19件

助成総額 2,979,683円

（累計 助成件数 342件、助成総額 91,905,822円）

② 分子標的薬治療薬と精子保存への経済的支援「志村大輔基金」

2023年1月に志村大輔基金設立から満10年の節目を迎えました。これを機にもっと広く患者さんに基金のことを知ってもらうために、2022年10月に新聞等に掲載をしていただき基金の周知を行いました。その結果、分子標的薬の新規助成申請の件数が大幅に増加しました。分子標的薬の助成件数は、本年度は79件（前年度84件）、精子保存の助成件数は本年度5件（前年度10件）でした。

志村大輔基金

問い合わせ件数 96件

（問い合わせ内訳 分子標的薬86件、精子保存10件）

申請件数 分子標的薬94件、精子保存7件

助成件数 分子標的薬79件、精子保存5件

助成総額 分子標的薬3,920,000円、精子保存91,580円

（累計 分子標的薬 助成件数611件、助成総額31,500,000円、  
精子保存 助成件数100件、助成総額3,636,648円）

③ 未受精卵子保存への経済的支援「こうのとりマリーン基金」

2021年4月から国の研究事業として「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」が開始され、2022年度は生殖補助医療にも助成対象が拡充されました。当基金では上記事業では賄われなかった費用、また、ほとんどの自治体で対象外となる継続保存料の助成を行っています。

こうのとりマリーン基金

問い合わせ件数 16件

申請件数 卵子保存 2件

助成件数 卵子保存 2件  
助成総額 卵子保存 109,900円  
(累計 卵子保存 助成件数 38件、助成総額 6,388,094円  
体外受精 助成件数 2件、助成総額 552,680円)  
※体外受精は2018年1月までの制度

## (2) ドナー支援活動

ドナー助成制度 35都府県、947市区町村  
ドナー休暇制度 755企業・団体 (2023年4月14日現在 日本骨髄バンク調べ)

全国協議会の「ドナーサポートダイヤル」による相談件数は、減少傾向にあります。相談内容としては、ドナー助成金、登録にあたって既往症の問い合わせ、適合通知が届いた家族からの心配事等です。

ドナーサポートダイヤル (ドナー相談受付)  
受付相談件数 14件 (うち電話受付 14件)  
(累計 電話受付 1,275件、メール受付 242件 合計 1,517件)

## 4. より良い造血幹細胞バンクと医療制度の充実を求める事業

### (1) 要望・請願活動

2022年7月21日付で以下の項目につき、厚生労働省、骨髄・さい帯血バンク議員連盟、公益財団法人日本骨髄バンク、日本赤十字社に対して要望書を提出しました。

- ① ドナー登録のオンライン化、スワブ検査方法の早期導入
- ② コーディネート期間短縮のための具体的取組と実現化
- ③ 移植患者がドナーへ感謝を示す方法、場面 (対面) などの再検討
- ④ 移植患者負担金軽減への具体的対策の実施
- ⑤ 骨髄バンク・さい帯血バンクの移植累計5万例到達について

### (2) 調査・研究・セミナー事業、国際交流

#### ① シンポジウムの開催

2022年度の「2022全国骨髄バンクボランティアの集い」は、2022年5月28日 (土) に昨年同様東京新橋のスタジオからハイブリッド形式で「<原点回帰>骨髄・末梢血採取で骨髄提供はできたけれど…まだ足りない! ぼくにはドナーがいません」と題し、前半は骨髄提供ドナー、末梢血提供ドナーが登壇し、骨髄提供の体験をお話しいただきました。後半は再生不良性貧

血でドナーを1年以上探し続けている男の子の父親がWebで参加し、ビデオを基にドナー登録を呼びかけ、また、大谷副会長、若木副理事長のコーディネートの下、前半に登壇した骨髄提供者2人とパネルディスカッションを行いました。視聴したボランティアの方々からは「久しぶりに患者さんの生の声を聞いた」、「ドナー登録促進のモチベーションが上がった」などと、まさに「原点回帰」というテーマに相応しい内容となりました。

大谷副会長による閉会の言葉の中で「最後の1人まで取り残さない」という言葉も視聴者の胸を打つものでした。

② 日本造血・免疫細胞療法学会（旧：日本造血細胞移植学会）総会への参加

2023年2月10日（金）～12日（日）の3日間に名古屋で開催された学会で「コロナ禍におけるボランティア活動の実態と限界」のテーマでポスター発表を行いました。全国の骨髄バンクボランティア団体82団体に対しアンケートを実施し、30団体から回答を得ました。回答率は36.6%でした。コロナ禍の下、停滞していた活動について(1)ドナー登録推進、(2)患者支援、(3)骨髄バンク事業啓発の3つに分類し、それぞれの回復状況を調査し、また、関係機関、医療関係者、一般社会との連携を呼びかけました。

また、今年度は理事が学会に参加し、各セミナーを聴講。最新の血液疾患に関する情報を収集しました。

③ ブロックセミナーの開催

全国各地域での活動を促進するため、2022年度も地元団体（担当理事）が主管団体としてブロックセミナーを開催しました。各地におけるドナー登録会の様子や課題、役員改選に関する意見交換、日本赤十字社や全国協議会への要望、各団体間の情報交換、などが行われました。コロナ禍のためブロックセミナー開催はオンライン（Zoom）により行われました。

開催期間		シンポジウム・セミナー	主催・協力等団体
2022年	6月18日	近畿ブロックセミナー (6団体30人参加)	(近畿地区担当理事)
	12月24日	東北地区ブロックセミナー (3団体12人参加)	骨髄バンクを支援するやまがたの会
2023年	2月19日	東海北陸地区ブロックセミナー (Zoom開催、8団体17人参加)	(東海北陸地区担当理事)
	3月19日	関東甲信越地区ブロックセミナー (Zoom開催、6団体26人参加)	(関東甲信越地区担当理事)

## (5) 日本骨髄バンク、日本赤十字社との連携

日本骨髄バンクおよび日本赤十字社血液事業本部とは、複数回の意見交換を行いました。これらの取り組みにより相互理解が促進され、今後の事業改善に役立てられるものと期待されています。また、関係機関からの要請により、役員・委員等を派遣しています。患者・家族とドナー、ボランティアの視点から意見表明を行いました。ほとんどが Web での会議となっています。

### ①役員・委員の派遣

日本骨髄バンク評議員（大谷貴子副会長）  
日本骨髄バンク評議員（梅田正造副理事長）  
日本骨髄バンクアドバイザーリーボードメンバー（菅早苗理事）  
日本赤十字社造血幹細胞事業検討委員（田中重勝理事長）

### ②日本骨髄バンク 理事会・評議員会・業務執行会議等の出席、傍聴 Web 開催となり、傍聴はかなわず資料取り寄せのみとなりました。

### ③日本赤十字社 年頭のご挨拶

2023 年 1 月 17 日に日本赤十字社を訪問。年頭挨拶とあわせ、情報交換を行いました。参加者は以下の通り。

日本赤十字社：高梨美乃子技術部次長、東史啓造血幹細胞業務課長、  
古館賢一造血幹細胞管理課長

全国協議会：田中重勝理事長、梅田正造副理事長、山崎裕一理事

### ④日本赤十字社 造血幹細胞事業広報作業部会の参加

オブザーバー参加 4 回

一般の方、特に若年層へ造血幹細胞移植の理解を広めるための広報誌「BANK!BANK!」編集作業会議での助言を行い、また、加盟団体を通して配付した広報誌の使用状況や反応、評判について集約し意見を述べました。

### ⑤日本骨髄バンク 全国都道府県担当者会議の傍聴

2022 年 12 月 16 日（金）

## 5. 運動体の強化、財政改善の活動

### (1) 運動ネットワークの強化

- ・加盟団体、協力団体と連携協力し、2022 年 11 月 12 日（土）、13 日（日）の 2 日にわたって後援団体として一般社団法人 SNOWBANK 主催、東京雪祭（SNOW BANK PAY IT FORWARD2022）（代々木公園）に参加しました。2 日間にわたる活動の成果として、献血は 471 人、102 人の方にドナー登録いただきました。
- ・本来、2022 年 3 月に新宿中央公園で開催される予定であったライオンズクラブ主催の献血・ドナー登録会が、コロナ禍の為 2022 年 4 月 10 日（日）に開催

されました。献血車 3 台が参加し、献血 93 人、ドナー登録 37 人の成果となりました。東京の会が中心となり、千葉の会、神奈川の会、協議会が説明員・ボランティアとして参加しました。前年度の開催が変則日程となったために、2022 年度は 2 回の開催となり、2023 年 3 月 12 日（日）にも開催されました。この回は 4 年振りに「防災フェア」と同時開催となりました。スペースの関係で献血車 1 台での対応となりましたが、献血 40 人、10 人の方にドナー登録いただきました。ライオンズクラブでは独自の事前予約制を導入しており、効率的に献血・ドナー登録ができる工夫をしており、協議会は受付の支援も行いました。

- 2022 年 11 月には全国 82 の骨髄バンクボランティア団体に向けてアンケートを実施しました。コロナ禍で停滞したボランティア活動の回復具合を確認し、今後、連携して活動できないかを模索するためです。30 の団体から回答を得、その結果についてはまとめて日本造血・免疫細胞療法学会でポスター発表しました。まだ各地団体とも従来の活動レベルにまでは回復しきっていませんでしたが、今後、全国協議会と協働する余地は十分にあると感じられました。

## （２）全国協議会の組織強化・財政改善活動

- 埼玉骨髄バンク推進連絡会が、第一生命第 74 回保健文化賞を受賞しました。
- 2022 年度においては、全国協議会による事業共催制度が導入されました。これは、各地の骨髄バンクボランティア団体がコロナ禍などの社会的な活動環境の変化があっても、継続して安定した患者支援活動、骨髄バンク事業啓発活動を展開できるようにするための事業で、各地のボランティア団体と全国協議会が連携して活動することを目的としています。コロナ禍の影響で従来の活動が困難になった場合など、この制度の活用が期待されます。
- ブロックセミナーについては地元団体（担当理事）が主管団体となり、実務的な意見交換・情報交換を実施しました。
- 2022 年度の新規加盟団体は 1 団体、退会団体は 2 団体でした。退会理由は団体の解散によるもの、並びに会員の高齢化・会員数の減少による活動困難が理由でした。これにより 2022 年度末における加盟団体数は 33 団体（うち休会中 5 団体）となっています。
- 年額 120,000 円の会費負担にも問題があるとの認識から、会費の改定が検討された結果、2022 年度より会費が年額 12,000 円に改定されました。
- 加盟団体の財政強化の側面的支援を目的として協議会より募金箱の無償提供が実施されています。一部の団体は活用していますが、まだ利用数は多くはありません。今後、各地での募金箱設置の活動が期待されます。
- 設立当初と比較して、全国協議会の存在意義が大きく変わってきた現在、加盟団体と全国協議会、全国の骨髄バンクボランティア団体と全国協議会の関係のあり方が大きく問われています。全国協議会は加盟・非加盟を問わず、血液難病の患者さんのために全国の骨髄バンクボランティア団体に対してどのような情報やサービスを提供すべきなのか、積極的に全国の声拾って新しい

関係の構築に取り組む必要があります。

- 2022年度は2020年度、2021年度に引き続きコロナ禍の影響を受けました。募金箱による収入が大きく伸びている一方で、寄付金（一般寄付、賛助会費、募金箱収入の合計）による収入は対前年度比163.5%と回復傾向にあります。しかし、クラウドファンディングによる寄付収入を除くと119.6%にとどまります。今後は、一時的な企画による収入確保だけでなく、安定的・継続的な収入となる寄附金による収入確保が重要となってきます。
- 公益財団法人正力厚生会「がん患者団体助成事業」から40万円の助成金を受給しました。全額白血病フリーダイヤルの運営に充当しました。
- 寄付をいただいた会社・団体等とのコミュニケーションを積極的に行いました。ホームページ上で謝意を表現するだけでなく、訪問して活動内容や、寄附金の使用状況などを報告しました。